

(必須回答項目には番号の頭に「*」マーク)

「看護研究における混合研究法の活用状況に関する調査」

アンケートへのご協力をお願い

私たちは、日本の看護研究における混合研究法 (mixed methods research) の教育モデル構築のため、看護研究者を対象にその活用状況や実践上の課題を調査しています。混合研究法 (mixed methods research) とは、「単一の研究プロジェクトの中で、量的・質的両方のアプローチを戦略的に用いることで、単一の方法では得ることの難しい新たな知見の獲得を支援する研究アプローチ」と定義されます。

以下の説明を読み、協力しても良いと思われた場合は、アンケート冒頭の同意欄へチェックを入れた上でご回答をお願いいたします。

研究の目的

この研究の目的は、日本の看護研究における混合研究法 (量的・質的研究を単一の研究プロジェクトの中で戦略的に用いる研究法) の活用状況と実践上の課題を理解することです。今回の調査結果は将来的に、「混合型研究実践ガイドブック」の開発や、看護領域を中心とした幅広い研究者にご活用いただける eラーニングのコンテンツ公開に生かされます。

(科学研究費助成事業基盤研究(B)「看護研究における混合研究法教育用ガイドブックの開発と eラーニングの構築」)

対象者と内容

この研究は、日本国内の大学の看護系学部・大学院の教員および、看護系大学院の学生にご参加をお願いしています。形式はウェブアンケートで、パソコンかスマートフォンから回答が可能です。内容は以下の二部構成となっています。

【第一部】ご自身の研究活動の経験、混合研究法の活用状況等 (回答所要時間約 10 分)

【第二部】混合研究法スキル尺度 (回答所要時間約 15 分)

(この尺度はミシガン大学混合研究法プログラム副主任 Dr.Guetterman により開発されました。ご自身の混合研究法スキルのセルフチェックとしてもお役に立ていただけます。)

なお、この研究への参加に伴うあなたの費用負担はなく、参加謝礼などは支払われません。第一部のみで終了することも可能です。疲労などの事情などにより途中で続けられなくなった場合は、回答を一次保留にするか、中止していただいても問題ありません。

研究責任者・組織

【責任者】青山学院大学混合研究法教育開発センター長

青山学院大学国際政治経済学部教授 抱井尚子

【共同研究者】聖路加国際大学教授 亀井智子、順天堂大学医療看護学部教授 野崎真奈美、

東京慈恵会医科大学准教授 福田美和子、秋田大学医学系研究科准教授 眞壁幸子

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科助教 大河原知嘉子、

産業医科大学産業保健学部教授 河村洋子、浜松医科大学医学部特任教授 井上真智子、

京都大学医学研究科特定研究員 成田慶一、京都大学 iPS 細胞研究所特定助教 八田太一、

立命館大学政策科学部教授 稲葉光行、青山学院大学教育人間科学部教授 高木亜希子

学習院女子大学国際文化交流学部准教授 田島千裕

取得した情報・データの管理について

本研究は、青山学院大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会及び本学学長の承認を経て実施します。あなたの回答は、個人が特定できない記号で管理され、大学で定められた期間まで適切に保管されます。個人情報管理するコンピュータは、他のコンピュータと切り離され

たものを利用し、厳重に管理します。あなたの回答を廃棄する際は、復元不能な形で廃棄します。

研究責任者、および連絡先

本研究の責任者は下記の通りです。この調査に関する質問等がある場合は、下記までご連絡ください。（他の研究対象者の個人情報等の保護の関係上、質問等に対応できない場合もございますことをご了承下さい。）

青山学院大学 国際政治経済学部 教授 抱井尚子
(E-mail) nursingmmr@gmail.com (電話) 03-3409-9709

以上の内容で参加に同意いただける方は、ウェブアンケート冒頭の同意欄へチェックを入れて、回答を開始してください。よろしくお願い申し上げます。

(同意チェック欄)

*○私はこの研究について説明文書を読み、研究内容を理解しましたので、自らの意思でこの研究への参加に合意します。

【第一部】(所要時間：5~10分程度)

1. あなたのバックグラウンドについてうかがいます。

*(1)所属組織の設置主体 (主たるものにチェックを入れてください。) 病院等にご勤務の場合はその他を選択してください。

- 国立大学 (省庁大学校を含む)
- 公立大学
- 私立大学
- その他 (具体的にご記入ください) [記述欄]

*(2)専門領域 (主たるものにチェックを入れてください。)

- 基礎看護学 母性看護学 小児看護学 成人看護学
- 老年看護学 公衆衛生・地域看護学 精神看護学
- 在宅看護学 看護教育学 看護管理学
- 国際看護学 災害看護学 その他 (具体的にご記入ください) [記述欄]

*(3)現在の立場 (主たるものを1つ選んでチェックをしてください。)

- 教員 →a. に進む 院生・学生 →b. に進む
- その他 (具体的にご記入ください) [記述欄] →(4)に進む
 - a. 教員の方にうかがいます。
 - *職位: 教授 准教授 講師 助教 助手 非常勤助手
 - ポスドク その他 (具体的にご記入ください) [記述欄]
 - *教員としてのおよその経験年数: () 年
 - *ご自身の業務全体を10とした場合に、研究、教育、学務、社会貢献に掛けているエフォートの割合を教えてください。該当しない場合は「0」とご記入ください。

研究 (ア) : 教育 (イ) : 学務 (ウ) : 社会貢献 (エ)

→*研究方法におけるご自身の主たる専門領域を1つ選んでください。

量的研究方法 質的研究法 混合研究方法

→*以下の研究方法についてのおよその教育経験年数（ご自身の責任科目として、学部・大学院教育において下記の研究方法の授業担当や論文指導に関わった年数）を教えてください。教育経験がない分野には「0」とご記入ください。

- ・量的研究方法（ ）年
- ・質的研究法（ ）年
- ・混合研究方法（ ）年

b. 院生・学生の方にうかがいます。

→*所属課程：博士課程（後期） 修士課程または博士課程前期
その他（具体的にご記入ください）[記述欄]

*(4)大学や大学院で以下の研究方法の授業を受講した経験について、およその科目数を以下の分野ごとに教えてください。受講経験のないものには0と入れてください。（学会などで開催されるセミナーやワークショップは除く）

- ・量的研究方法（ ）科目
- ・質的研究法（ ）科目
- ・混合研究方法（ ）科目
- ・上記の研究法を総合的に学ぶ授業（ ）科目
（例：研究法の全体像を学ぶような授業）

(5) 学会などで実施される混合研究方法のセミナーやワークショップに参加した経験があれば、およその回数を教えてください。 （ ）回

(6) 日本国内の高等教育機関から取得した/取得中の「修士号」または「博士号」の学位について、それぞれの分野と取得年代を教えてください。（該当しない場合はとばしてください。複数の学位を取得された方は現在のお仕事にもっとも関連する学位について教えてください。）

a. 修士号取得分野 看護学 保健学 医科学・医学
その他(具体的にお書きください)[記述欄]

修士号取得年代 1980年代以前 1980年代 1990年代 2000年代以降
現在取得中

b. 博士号取得分野 看護学 保健学 医科学・医学
その他(具体的にお書きください)[記述欄]

博士号取得年代 1980年代以前 1980年代 1990年代 2000年代以降
現在取得中

c. 学位取得を目的とした海外留学経験 あり・なし

→「あり」を選んだ方は取得学位分野・取得年代・留学先地域を教えてください。

修士号取得分野 看護学 保健学 医科学・医学

その他(具体的にお書きください)[記述欄]

取得年代 1980年代以前 1980年代 1990年代 2000年代以降

現在取得中

留学先地域 北米 欧州 オセアニア アジア 南米

その他の地域

博士号取得分野 看護学 保健学 医科学・医学

その他(具体的にお書きください)[記述欄]

取得年代 1980年代以前 1980年代 1990年代 2000年代以降

現在取得中

留学先地域 北米 欧州 オセアニア アジア 南米

その他の地域

1-7.あなたの年齢、性別について教えてください。

*(7)現在の年齢 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

*(8)性別 男性 女性 どちらでもない/答えたくない

*2.このアンケートに回答する前の段階で、混合研究法 (mixed methods research: MMR) という研究アプローチをご存知でしたか。

はい→質問3に進む。

いいえ→2a.に進む

聞いたことがある程度で詳しくは知らない→2a.に進む

*2a. 混合研究法 (mixed methods research) とは、「単一の研究プロジェクトの中で、量的・質的両方のアプローチを戦略的に用いることで、単一の方法では得ることの難しい新たな知見の獲得を支援する研究アプローチ」と定義されますが、今後活用することに関心はありますか？

はい →質問4.に進む。

いいえ (こちらを選択するとアンケートは終了します。)

→その理由は何ですか。自由にお書きください。(この質問でアンケートは終了します)

(自由記述欄) →ご協力ありがとうございました。提出

*3.混合研究法を用いた研究 (以下、混合型研究) をこれまで経験したことはありますか。
(ここでいう「経験」には、混合型研究の計画策定、データ収集・分析、発表・論文執筆

の一連の作業またはいずれか一部が含まれます。現在進行中の研究も含まれます。)

○はい →3a.へ進む

○いいえ →質問 4 に進む。

*3a. (3.で「はい」の人のみ)計画や実施をしたプロジェクトの数について教えてください。
該当する経験がない項目には「0」と入れてください。()

↓

3 b. 混合型研究を実施する上で、何がもっとも難しいと感じましたか？直面したハードルについていくつでも自由にお書きください。できるだけ具体的にお書きください。

(自由記述欄)

*3c. 混合型研究に関するご自分のスキルにどの程度満足していますか？

1	2	3	4	5
非常に不満	どちらともいえない		大いに満足	

*4. 混合型研究を計画や実施する上で、あなたにアドバイスをくれるメンター（指導者や助言者）は所属機関に何人くらいいますか？1人もいない場合は「0」とお書きください。（複数の所属機関をお持ちの方は、研究を実施する上で主として関わりをもつ所属機関を想定してお答えください。）

() 人

5. 混合型研究のオンライン教材があったら、利用したいと思いますか？下記の3つのオンライン教材について利用したいと希望する程度を、1から5までの数字でお答えください。

*5a. ライブ型オンライン教材（ライブ講義の視聴+講師とのインタラクション）

1	2	3	4	5
全く利用したいと思わない	どちらともいえない		大いに利用したいと思う	

*5b. オンデマンド動画型オンライン教材（オンデマンド動画の視聴+質問は掲示板に投稿）

1	2	3	4	5
全く利用したいと思わない	どちらともいえない		大いに利用したいと思う	

*5c. 自学自習型オンライン教材（参考資料、ワークシート、クイズなどをダウンロードし自習+テスト）

1	2	3	4	5
全く利用したいと思わない		どちらともいえない		大いに利用したいと思う

5d. 上に挙げたオンライン教材以外で利用したいと思うオンライン教材があればお書きください。

(自由記述欄)

5e. 混合型研究のオンライン教材に対する要望や課題等があれば自由にお書きください。

(自由記述欄)

*6. 本調査プロジェクトでは、混合型研究を実施または計画する上で研究者が直面するハードル(課題)についてより詳細な知見を得るために、フォーカスグループインタビューの実施を計画しています(オンライン会議で2021年前半の予定)。協力してもよいとお考えの方には改めて詳細をご案内しますので、下記の「協力可能」を選択してメールアドレスをご記入ください。ご協力が難しい方は、「協力辞退」を選んで次へ進んでください。

協力可能 → [メールアドレスの記入欄] (この情報は回答とは分けて管理されます。)

協力辞退 → 第一部終了のページへ進む

ここまで【第一部】は終了です。【第二部】は、ミシガン大学混合研究法プログラム副主任 Dr. Guetterman が開発された「MMR (混合研究法) スキル尺度」で、ご自身の量・質・混合研究法の知識や実践力のセルフチェックとしてご活用いただける内容となっております。また皆様の回答は、日本の看護研究における混合研究法の実践状況や課題の理解、そしてその克服に役立つ e ラーニング教材の開発のために活用してまいります。回答には 15~20 分程度かかります。続けてご回答いただけますか？

* 引き続き、MMR スキル尺度に回答する → 【第二部】へ進む。

ここまでの回答を一旦保存し、あとで続きを回答する。→ 保存&保留

ここで回答を終了し、提出する (これを選択すると、アンケートは終了します。)

→ 「ご協力ありがとうございました！」

【第二部】MMR（混合研究法）スキル尺度（所要時間：15~20分程度）

このスキルのセルフアセスメントは、3つのセクションから構成されています。

セクション 1.混合研究法におけるご自身の専門的な経験について

セクション 2.量的研究、質的研究、混合型研究の各分野について、ご自身の能力（定義/概念を説明、知識の適用、学習ニーズ）の判定と、あなたが学びたいことについて

セクション 3. その他のフィードバックについて

セクション 1. 混合研究法におけるあなたの専門的な経験をうかがいます。

1-(1)

	はい	いいえ	コメント
研究法の背景			
私は主に質的研究法のトレーニングを受けてきた。			
私は主に量的研究法のトレーニングを受けてきた。			
私は主に混合研究法のトレーニングを受けてきた。			
混合研究の専門的な経験			
私は混合研究法の計画書を作成し、助成金を得た。			
私は研究計画書を作成したが、助成金を得られなかった。			
私は混合型研究を実施するチームに参加している。			
私は混合型研究を学内の小研究会で発表したことがある。			
私は混合型研究を国内の学会で発表したことがある。			
私は混合研究法の授業を受講したことがある。			
私は混合研究法を用いた論文を出版したことがある。			
私は混合研究方法を含む学位論文を書いた。			
私は混合研究法について他者に指導や助言を行なっている。			
私はJSPSの科学研究費助成事業などで混合研究法の申請書を審査したことがある。			
私は財団法人やその他の組織で混合研究法の申請書を審査したことがある。			
私は学術誌で混合研究法の論文を査読者として審査したことがある。			

1-(2) ソフトウェアの使用について

	まったく 知らない	知っている	使用経験 がある
以下のソフトウェアをどのくらい知っているか、評価してください。			
SPSS			
SAS			
JMP (SAS institute)			
STATA			
R			
NPlus			
NVivo			
MAXQDA			
ATLAS.ti			
HyperRESEARCH			
Dedoose			
もし良ければ、あなたが使用している他のソフトウェアを以下に挙げてください。			
(自由記述)			

1-(3) 教材の使用について

	まったく 知らない	部分的に 読んだ	読んだ・ 引用した
以下の参考文献をどのくらい知っているか、評価してください。			
The NIH Best Practices for Mixed Methods in the Health Sciences			
A Concise Introduction to Mixed Methods Research (Creswell, 2014) 早わかり混合研究方法 (抱井尚子訳, 2017)			
Designing and Conducting Mixed Methods Research (Creswell & Plano Clark, 2010) 人間科学のための混合研究法 (大谷順子監修・翻訳, 2010)			
SAGE Handbook of Mixed Methods in Social & Behavioral Research (Tashakkori & Teddlie, 2010)			
Mixed Methods in Health Sciences Research: A Practical Primer (Curry & Nunez Smith, 2015)			
Mixed Methods Research for Nursing and Health Sciences (Andrew & Halcomb, 2009)			
Foundation of Mixed Methods Research (Teddlie & Tashakkori, 2009) 混合研究法の基礎 社会・行動学の量的・質的アプローチの統合 (土屋敦, 八田太一, 藤田みさお監訳, 2017)			
混合研究法入門 質と量による統合のアート (抱井尚子, 2015)			
もしよろしければ、あなたが使用したことのある他の参考文献を以下に挙げてください。			
(自由記述)			

セクション 2. このセクションでは、具体的な研究スキルを3つの側面から自己評価していただきます。

- (1) その概念や手続きについて定義、または説明する能力
- (2) その概念や手続きを、学問領域における実践的な課題に適用する能力
- (3) 今後1年間のあなたの学習ニーズ

量的研究についてお聞きします。 1（全くない）から5（大いにある）の数字を選んでください。

量的研究

量的研究			
スキルドメイン	(1)定義/説明を する自分の能力	(2)実践的な課題 に適用する自分の 能力	(3)自分がこのス キルを向上させた 度合い
	全くない(1) …… 大いにある(5)		
リサーチクエスト (研究設問)			
設問、目的、仮説の策定	1~5	1~5	1~5
統計的手続きの前提の提示(例:パラメトリック統計における正規分布の前提)	1~5	1~5	1~5
検証すべき理論または概念的枠組みの使用	1~5	1~5	1~5
デザイン/アプローチ			
無作為化を含むデザイン (例, 実験)	1~5	1~5	1~5
観察研究 (例, コホート、ケースコントロール)	1~5	1~5	1~5
サンプリング			
サンプリング戦略 (例, ランダムサンプリング)	1~5	1~5	1~5
参加同意と募集の倫理的原則	1~5	1~5	1~5
データ収集			
調査法の原則	1~5	1~5	1~5
尺度の妥当性	1~5	1~5	1~5
尺度の信頼性	1~5	1~5	1~5
研究の内的妥当性への脅威	1~5	1~5	1~5
研究の外的妥当性への脅威	1~5	1~5	1~5
分析			
記述統計 (例, 平均値の比較)	1~5	1~5	1~5
線形回帰分析	1~5	1~5	1~5
ロジスティック回帰分析	1~5	1~5	1~5
生存時間分析	1~5	1~5	1~5
因子分析	1~5	1~5	1~5
共分散構造分析	1~5	1~5	1~5
結果の公表			
量的方法を含む結果の執筆	1~5	1~5	1~5
学術分野以外の人々との量的な結果に関するコミュニケーション	1~5	1~5	1~5

このセクションでは、具体的な研究スキルを3つの側面から自己評価していただきます。

- (1) その概念や手続きについて定義、または説明する能力
- (2) その概念や手続きを、学問領域における実践的な課題に適用する能力
- (3) 今後1年間のあなたの学習ニーズ

質的研究についてお聞きします。1（全くない）から5（大いにある）の数字を選んでください。

質的研究

質的研究			
スキルドメイン	(1)定義/説明をすすめる自分の能力	(2)実践的な課題に適用する自分の能力	(3)自分がこのスキルを向上させた度合い
	全くない(1) …… 大いにある(5)		
リサーチクエストン (研究設問)			
設問と目的の策定	1～5	1～5	1～5
根底にある哲学的前提の提示	1～5	1～5	1～5
設問を形成する理論または概念的枠組みの使用	1～5	1～5	1～5
デザイン/アプローチ			
グラウンデッドセオリー	1～5	1～5	1～5
ナラティブ分析	1～5	1～5	1～5
現象学	1～5	1～5	1～5
事例研究	1～5	1～5	1～5
エスノグラフィー	1～5	1～5	1～5
参加型アクションリサーチ (CBPR)	1～5	1～5	1～5
サンプリング			
サンプリング戦略 (例. 合目的)	1～5	1～5	1～5
参加同意と募集の倫理的原則	1～5	1～5	1～5
データ収集			
非誘導的面接の原則	1～5	1～5	1～5
フォーカスグループ	1～5	1～5	1～5
半構造化インタビュー	1～5	1～5	1～5
参与観察	1～5	1～5	1～5
文書資料	1～5	1～5	1～5
視聴覚資料	1～5	1～5	1～5
分析			
データコーディング	1～5	1～5	1～5
観察データの分析	1～5	1～5	1～5
テーマの構築	1～5	1～5	1～5
テーマとテーマの関連づけ	1～5	1～5	1～5
結果の公表			
質的方法を含む結果の執筆	1～5	1～5	1～5
学術分野以外の人々との質的な結果に関するコミュニケーション	1～5	1～5	1～5

このセクションでは、具体的な研究スキルを3つの側面から自己評価していただきます。

- (1) その概念や手続きについて定義、または説明する能力
- (2) その概念や手続きを、学問領域における実践的な課題に適用する能力
- (3) 今後1年間のあなたの学習ニーズ

混合型研究についてお聞きします。1（全くない）から5（大いにある）の数字を選んでください。

混合型研究

混合型研究			
スキルドメイン	(1)定義/説明をす る自分の能力	(2)実践的な課題 に適用する自分の 能力	(3)自分がこのス キルを向上させた 度合い
	全くない(1) …… 大いにある(5)		
リサーチクエストン (研究設問)			
探究の様式に合う設問と目的の策定	1~5	1~5	1~5
根底にある哲学的前提の提示	1~5	1~5	1~5
混合型研究を用いる根拠	1~5	1~5	1~5
デザイン/アプローチ			
デザインにおける統合のポイントの明確化	1~5	1~5	1~5
説明的順次デザイン	1~5	1~5	1~5
探索的順次デザイン	1~5	1~5	1~5
収斂デザイン	1~5	1~5	1~5
介入デザイン	1~5	1~5	1~5
プログラム評価デザイン	1~5	1~5	1~5
事例研究 (デザイン)	1~5	1~5	1~5
混合研究法の内的妥当性への脅威	1~5	1~5	1~5
混合研究法の外的妥当性への脅威	1~5	1~5	1~5
混合研究法デザインのダイアグラム	1~5	1~5	1~5
サンプリング			
質的・量的な方法に則したサンプリングの戦略 (例.無作為の後、有意選出法)	1~5	1~5	1~5
参加募集と参加同意の倫理的指針	1~5	1~5	1~5
データ収集			
並列的データ収集の戦略	1~5	1~5	1~5
順次的データ収集の戦略	1~5	1~5	1~5
分析			
質と量のデータの結合 (例.ジョイントディスプレイ)	1~5	1~5	1~5
カルチュラル・コンセンサス分析	1~5	1~5	1~5
質的・量的データをつなぐ推論 (例.メタ推論)	1~5	1~5	1~5
結果の公表			
同じレポートの中に質的・量的両方の方法を組み込んだ結果の執筆	1~5	1~5	1~5
学術分野以外の人々との質的・量的両方の方法を含む結果に関するコミュニ ケーション	1~5	1~5	1~5

セクション 3. その他のフィードバックについてうかがいます。

私たちがお尋ねしなかったことで、あなたが重要と思うスキルをいくつでも挙げてください。

(この質問で最後です。)

(自由記述)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。 → 提出